

## 公認スキーパトロール検定基準と実施要領

1. 公認スキーパトロール検定規程第12条に基づき、公認スキーパトロール検定の検定基準及び実施要領に関し、必要な事項を定める。
2. 本規程の年度は、本連盟の定款第6条で定めた事業年度8月1日から翌年7月31日までをいう。
3. スキーパトロール検定の検定基準及び実施方法
 

スキーパトロール検定試験は、実技テスト及び理論テストからなり、その総合成績から合否判定する。

  - (1) 検定要領
    - ① スキー実技テスト
      - 基礎種目テスト実施要領  
別表①のとおりとする。
      - 搬送種目テスト実施要領  
別表②のとおりとする。
    - ② 理論テスト
 

出題範囲は、本連盟の教程等刊行物、規約・規程とし、当該年度の開催要項に明示する。所要時間は60分を原則とする。
    - ③ 採点基準・合否判定方法
 

テストの採点基準は次のとおりとする。

      - スキー実技テストは、1種目あたり100ポイントとし、検定員3名の評価の平均値（小数一位を四捨五入）を当該種目の取得ポイントとする。6種目の合計が450ポイント以上を合格とする。
      - 理論テストは、100点満点とし、60%以上を合格とする。
      - 総合判定は、同一年度内において、実技テスト、理論テストの両方を合格した場合、合格となる。
  - (2) 養成講習
    - ① 養成講習は、集合講習20.5時間、自主学习17時間とし、加盟団体が実施する。
      - 理論講習15時間（集合講習6時間、自主学习9時間）
      - 実技講習22.5時間（集合講習14.5時間、自主学习8時間）
      - 実施要領は、別表③のとおりとする。
    - ② 養成講習会の講師は、本連盟の安全対策専門委員・スキーパトロール技術員とし、当該年度のスキーパトロール中央研修会又はスキーパトロール技術員研修会を修了した者
    - ③ 養成講習を未修了の受検者が、他の加盟団体へ移籍した場合、受け入れ先の加盟団体は、当該年度の養成講習を継続する。
    - ④ 養成講習の修了は、実施団体が発行する養成講習修了報告書又は所属加盟団体の証明書で確認する。
4. この基準及び実施内容の改廃は、教育本部理事会の議決による。

昭和 63 年 5 月	改訂
平成 5 年 6 月 26 日	改正
平成 14 年 11 月 5 日	改正
平成 15 年 11 月 7 日	改正
平成 23 年 9 月 20 日	改正
平成 24 年 9 月 26 日	改正
平成 25 年 8 月 9 日	改正
平成 29 年 7 月 15 日	改正
平成 30 年 12 月 13 日	改正
令和元年 12 月 11 日	改正
令和 5 年 4 月 20 日	改正
令和 5 年 7 月 5 日	改正

別表① 公認スキーパトロール検定 基礎種目テスト実施要領

区分	実技種目	斜面/回転数	実技の内容	評価の観点
制動技術	ブ레이크 ボーゲン	・整地/中急斜面 ・中回り ・6回転~8回転	制動を主体とした回転技術	・ターン運動の構成 (ポジショニング、エッジング) ・斜面状況への適応度 (スピードと回転弧のコントロール)
	横滑り	・整地/中急斜面 ・ブ레이크スタンスでの左右の切換え4回以上 ・ピボット操作での左右の切換え4回以上	・種類の異なる切り換えを連続して行う ・スピードコントロールとフォールライン 方向維持	
応用技術	パラレルターン (小回り)	・整地/急斜面	各種地形・雪質への対応 滑らかで安定した操作	・運動の質的内容 (バランス・リズム・タイミング)
	パラレルターン (大回り)	・整地/急斜面	各種地形・雪質への対応 滑らかで安定した操作	

別表② 公認スキーパトロール検定 搬送種目テスト実施要領

区分	実技種目	斜面/回転数	実技の内容	評価の観点
搬送技術	制限搬送	・整地/緩~中斜面 ・大回りと浅回り 10~15 旗門を含む複合コース	・仮傷病者を載せたアキヤボートを後方 1 人操作で搬送する	・安定を優先したスムーズな操作 ・指定条件の達成
	真下搬送	・整地/中~急斜面 ・旗門間隔 5m 以内、旗門距離 10m 以内のオープ ンゲート 4 セットで構成されたコース	・仮傷病者を載せたアキヤボートを後方 1 人操作で搬送する	

別表③ 公認スキーパトロール養成講習実施要領

## I. 理論講習 15 時間 (集合講習 6 時間、自主学習 9 時間)

講習科目	時間	内容
序論	1.0	①スノースポーツを取り巻く環境 ②スノースポーツに内在する危険 ③スノースポーツ事故の実態 ④事故と法的責任 ⑤安全なスノースポーツ環境の創出に向けて
安全な滑走のために	1.0	①スキーヤーの責務 ②引率者・指導者および受講者の責務 ③救助義務 ④ジュニアスキーヤー、シニアスキーヤーの安全対策 ⑤スノーボーダーの安全対策 ⑥競技スキーの安全対策 ⑦スキー用具と安全
スキーパトロール概論	1.5	①スキーパトロールとは ②スキーパトロールの業務内容 ③スキーパトロールに求められる知識・技術 ④スキー場の運営
スノースポーツの医学	1.5	①スノースポーツ救急法概論 ②スノースポーツの外傷・障害
山岳スキー	1.0	①バウンダリーを越えることの意味 ②基礎知識・基本技術 ③装備 ④冬山の気象学 ⑤雪崩 ⑥搜索費用・保険

## II. 実技講習 22.5 時間 (集合講習 14.5 時間、自主学習 8 時間)

講習科目	時間	内容
基礎種目制動技術	3.0	スキーパトロールとして必要な、制動技術・回転技術・総合技術を用いたブ레이크ボーゲン 横滑り 片開きブ레이크 (別表④, 講習内検定)
基礎種目応用技術	2.0	パラレルターン (小回り・大回り)
搬送種目	5.5	仮傷病者を載せたアキヤボート後方一人操作で制限搬送 (浅回り搬送, 大回り搬送) 真下搬送
救急法	2.0	赤十字救急法講習教本に示す三角巾包帯法及び止血法 (別表⑤, 講習内検定)
ロープ操法	2.0	本連盟の教程等刊行物に示すロープワーク (別表⑥, 講習内検定)

別表④ 公認スキーパトロール検定 基礎種目テスト（片開きプルーク）実施要領（講習内検定）

区分	実技種目	斜面／回転数	実技の内容	評価の観点	合否判定
制動技術	片開きプルーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整地／中斜面</li> <li>・左右の切換え4回</li> <li>・直滑降、切換え、停止ゾーン指定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピードコントロールとフォールライン方向維持</li> <li>・滑らかで安定した切換え操作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ターン運動の構成（ポジショニング、エッジング）</li> <li>・斜面状況への適応度（スピードと回転弧のコントロール）</li> <li>・運動の質的内容（バランス・リズム・タイミング）</li> </ul>	100ポイント満点とし、75ポイント以上を合格とする。

別表⑤ 公認スキーパトロール検定 救急法テスト実施要領（講習内検定）

区分	課題	条件	方法	評価の観点	合否判定
止血	出血に対する手当として、直接圧迫止血法（1種目）と止血帯止血法（2種目）を出題する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検定員は、受検者を事前にパディを組ませ、一方を救助者、他方を傷病者とする。</li> <li>・具体的に、患部及び状態を指定する。</li> <li>・傷病者の体位は、検定員が指示する。</li> <li>・止血帯は、素早く実施することが原則であり制限時間は設けないが、検定中に緊縛時間が長ならないように配慮する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救助者と傷病者は向かい合って位置する。</li> <li>・救助者は、検定員の「始め」の合図で、手技を開始する。</li> <li>・救助者は、検定員の「止め」の合図で、手技を終了する。</li> <li>・検定員は手技を採点する。</li> <li>・救助者と傷病者は、役割を交代する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a.直接圧迫止血法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・患部の状況にあった保護ガーゼを当て、手全体で圧迫しているか</li> <li>・救助者の位置、姿勢は良いか</li> </ul> </li> <li>b.止血帯止血法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・止血帯を巻き付ける位置は正しいか</li> <li>・棒やロッドの固定は確実にできているか</li> <li>・三角巾やバンドは緩くないか</li> </ul> </li> </ul> <p>※種目ごとに以上のポイントを目安に判定する</p>	1種目あたり100ポイントとし、8種目の合計が600ポイント以上を合格とする。
包帯・固定（副子を使用しないもの）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きずに対する手当として、三角巾（額、頭、前腕a、膝、腕のつりaから4種目）を出題する。</li> <li>・骨折、脱臼、捻挫に対する手当として、副子を使用しない固定（鎖骨骨折固定、足首捻挫固定から1種目）を出題する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検定員は、受検者を事前にパディを組ませ、一方を救助者、他方を傷病者とする。</li> <li>・救助者は、保護ガーゼ、三角巾等を用意する。</li> <li>・具体的に、患部及びきずの状態を指定する。</li> <li>・傷病者の体位は、検定員が指示する。</li> <li>・三角巾は開き三角巾の状態から始める。</li> <li>・制限時間は、概ね次の時間を目安とする。 三角巾1枚を使用するものは1分30秒 三角巾2枚を使用するものは2分30秒</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救助者と傷病者は向かい合って位置する。</li> <li>・救助者は、検定員の「始め」の合図で、手技を開始する。</li> <li>・救助者は、検定員の「止め」の合図で、手技を終了する。</li> <li>・検定員は手技を採点する。</li> <li>・救助者と傷病者は、役割を交代する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a.保護ガーゼ（固定は除く） <ul style="list-style-type: none"> <li>・確実に患部を覆っているか</li> <li>・きずにあった厚さ、広さになっているか</li> </ul> </li> <li>b.包帯の巻き方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・手順通りに出来ているか</li> <li>・たるみがなく保護ガーゼが支持されているか</li> <li>・患部を十分に覆えているか</li> <li>・本結びになっているか</li> <li>・末端の処理はよいか</li> </ul> </li> <li>c.締め具合 <ul style="list-style-type: none"> <li>・きずにあった締め具合になっているか</li> </ul> </li> <li>d.結び目の位置 <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的に外側、上部で結ばれているか</li> <li>・きずを避けた位置で結ばれているか</li> </ul> </li> <li>e.その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>・傷病者を手荒に取り扱っていないか</li> <li>・保護ガーゼ、包帯の扱いは良いか</li> <li>・全体のバランスは良いか</li> <li>・時間内にできたか</li> </ul> </li> </ul> <p>※以上のポイントを目安に判定する</p>	

別表⑥ 公認スキーパトロール検定 ロープ操法テスト実施要領（講習内検定）

区分	課題	条件	方法	評価の観点	合否判定
ロープ操法	本連盟の教程等刊行物に示す結びの種類から8種目を出題する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検定に使用するロープは、外径7.0～12.0mm、長さ5m、材質はロープ検定種目に適したものとする。</li> <li>・検定員は、結びの種類を指定する。</li> <li>・受検者は、ロープ末端を片手で保持した状態で待機する。</li> <li>・制限時間は、全種目とも40秒とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受検者は、検定員の「始め」の合図で、手技を開始し、「止め」の合図で、手技を終了する。</li> <li>・検定員は評価の観点に基づき採点する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・輪の大きさ（種目の用途に適しているか）</li> <li>・末端の長さ（一握り程度の長さか）</li> <li>・結束の強さ（結びが緩んでいないか）</li> <li>・時間（制限時間内に結束できたか）</li> </ul>	1種目あたり100ポイントとし、8種目の合計が600ポイント以上を合格とする。